

科目	文化継承論	担当	高崎 義幸	履修学年	2年
時間数	90分×時限×16回(週1回)	履修区分	選択	単位数	2単位

**【授業目標・到達目標】**

日本の各自治体では現在それぞれ街づくりの試みが行われている。企業の誘致、住宅の整備、学校の建設の他、旧市街の再開発や商店街の活性化、伝統産業の振興、高齢者及び過疎対策、さらに地元の文化人を顕彰して街づくりに生かそうとする自治体も少なくない。この授業はまずまちづくりについて総論的に論じ、各論で特に再開発、過疎化による文化伝承の危機、文化人の顕彰を取り上げたい。各論では再開発や文化人顕彰に顕著な動きのある地元東海市の取り組みなどを検証する。学内外の複数の講師によるオムニバス授業である。観光・まちづくりコースの学生および公務員をめざす学生は日本の自治体のまちづくりの現状と今後を考える手がかりにして欲しい。

**【履修注意】**

授業は毎回出席が原則である。欠席回数が5回に達した場合、期末試験の受験を認めない。遅刻をしないこと、私語を慎むこと、パソコンや携帯を開くことは厳禁とする。

**【評価方法】**

ミニツッペーパー(30%)、定期試験(70%)を総合して評価する。

**【試験について】**

定期試験を実施する。

再試験対象者の条件: 欠席回数が5回未満で、定期試験と小テストの合計が50点以上あること。

**【予習・復習】**

学修時間は1単位45分が文部科学省指針である。1単位科目は90分の講義に対して45分、2単位科目は90分の講義に対して90分の自宅学習(予習、復習)が必要である。

**【教科書】**

購入教科書なし。毎回プリントを配布する。

**【参考書】**

**【その他の注意事項】**

**【授業計画・内容】**

回数	項目	内容
1	オリエンテーション	地方の時代、低成長時代、伝統文化、保存会、過疎
2	東海市と細井平洲(森川)	東海市の成り立ち、細井平洲記念館、文化財調査委員会
3	平洲と文化財(松原)	平洲記念館、観音寺、西方寺
4	犬山城下町と尾張横須賀(松原)	旧市街の整備、郊外の整備、山と川を取り込む
5	有松・岡田の街づくり(松原)	伝統産業(機織りと染色)と古い街並み
6	瀬戸・常滑の街づくり(松原)	伝統産業(やきもの)と古い街並み
7	足助の街づくり(松原)	雛人形、中馬街道、鈴木正三、三州足助屋敷
8	戦後のニュータウン(森川)	高蔵寺、春日井市、愛知用水
9	小布施の街並修景事業(森川)	市長、建築家、歴史空間保存と現代生活との兼ね合い
10	三信遠山間部の芸能(森川)	三河、信濃、遠江、過疎、花祭り保存、開発と環境の変化
11	東海市と万歳(早川他)	御殿万歳、門付万歳、三曲万歳、保存会
12	祭りの構造と機能(高崎)	祭りの概念、構造、機能、変容
13	中国地方の神楽(高崎)	中山間地域の生活様式と祭り文化
14	広島県の神楽①(高崎)	戦後の西中国山地における神楽の変容
15	広島県の神楽②(高崎)	神楽の変容と観光資源化
16	期末試験	期末試験